

が、私なりに一つ案を申しあげたいと思います。

それは「律儀者の子沢山」と言う諺ことわざです。すなわち、律儀な男は遊びにふけったりすることもないので自然と夫婦仲も良くなり、その結果、子供が沢山生まれるという諺が昔から言われておりますが、そのように夫婦仲が良い、円満な家庭を作るといことがひいては人口増加につながるのではないかと考えているのです。

これは明治安田生命保険相互会社が毎年11月22日（いい夫婦の日）にちなんでアンケート調査をしている報告によりますと、夫婦円満のためには何が必要だと思えますか？という問いに対して、やはりよく会話をすることが一番だと答えたご夫婦が非常に多いという結果が出ています。愛情度が高いから会話が増えるのか、会話が多いから愛情度が高まるのかはわかりませんが、ともあれ夫婦間の愛情を高めるためには会話によるコミュニケーションが重要だと言つふうに考えている人が多いことがわかんと思えます。

家庭円満で夫婦喧嘩をしない家庭であれば子供たちもすくすくのびのびと安定した心で育つことが出来るのは間違いありません。

次に、これから紹介をいたします都々逸は私が会長を勤めさせていただいております角田・丸森地区防火管理者協議会で紹介をした都々逸ですが、「目から火の出る所帯を持ってど火事さえ出さなきや水入らず」という都々逸です。家庭円満そして家内安全これに努め家庭から明るい笑い声と楽しい会話そういう家庭の中にこそ社会を良い方向にしていく原動力が生まれると思います。そう信じて来年も平和で明るい社会になるよう祈りたいものだと思います。それでは除夜の鐘の時に皆さんとお会いしましょう。今年一年ありがとうございました。

**あけましておめでとつございます・・・平成27年1月1日**

あけましておめでとつございます。

皆様方におかれましては良い春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。本年も何卒よろしくお願いいたします。お餅はたくさん召し上が

りましたか、お正月に美味しいお雑煮をいただくことぐらい幸せな気持ちになる時はないと思います。

さて新年早々難しい話をするようで大変恐縮ではありますが、新約聖書マタイ伝に「人はパンのみにて生きるものにあらず」という有名な言葉が出てまいります。

人間は食べ物などの物質的満足だけで生きるものではない、精神的な満足を得てこそ生きられるものだという意味とあります。神の口から出る一つの言葉によって私達は生きるものである生かされるものであると言うふうに新約聖書は説いております。しかし、現代は物質の豊かさに流され、精神的な豊かさ満足が得られない時代になったと言われていると思います。

この言葉は、私たち僧侶の立場においても布教・教化の点からも反省すべき言葉であります。より多くの方々に、気安くお寺においでいただき、お寺でゆっくりとお茶を召し上がっていただきながら何か宗教的な心を感じていただく、神様や仏様のお力で生かされているんだ、そのような安心（あんじん）が得られるようなお寺にしなければならぬと思います。

お寺にはパンはございませんが、心落ち着く本堂と心やすらぐ庭園と暖かいお茶がございます。

お寺本来の自然の空間とお香の香りのする静けさの中で、生命の豊かさや喜びを感じていただきたいと思えます。この一年よろしくお願いいたします。

皆様方のご健勝とご繁栄、ご活躍を心よりお祈りをいたします。

**長泉寺の朝・・・平成27年1月8日**

おはようございます。

禅宗のお寺ではまず起きて坐禅です。その坐禅をする前に、行香と言って諸堂にお祀りする仏様にお線香をあげてご挨拶をし、そして最後に坐禅に入り、文殊様（聖僧様）にお香をお供えして、坐禅をさせていただく「行」を勤めています。

そこで長泉寺では毎朝どのようなにして、行香をしているかを今日はご紹介致します。

まず最初に護法韋駄尊天さん。俗に言う韋駄天

さんとは仏法伽藍守護の仏様です。

かまど（竈）もお護りをいたしますので火消装束のような鎧を着た勇ましい格好をした仏様です。

続きましておトイレですね

「東司とつす」と呼ばれています。

東司の仏様、烏枢沙摩明王様にご挨拶をします。数年前に

「トイレの神様」という歌が流行りましたが、いわばこれはトイレの仏様ということですね。

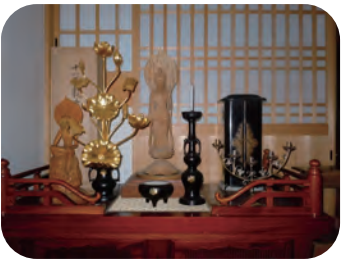
その次に御開山様・開山堂に赴き長泉寺を開かれた即庵宗寛禅師様その他歴代のご住職様に上香三拝してご挨拶をします。そしてご本堂にまいります。



そこで上香三拝をし、それから坐禅堂に入り文殊様にまた上香三拝してよいよ坐禅となります。で、朝5時40分に坐禅が放禅いたします。

1人のお坊さんは6時の梵鐘を撞きに参り、残った私が朝のお勤め、いわゆる朝課（読経）をいたします。

朝課がすんだら、「戦没者慰霊塔」そして伊具地区三十三観音の一つ（第31番）である「十一面



観世音菩薩」（一体は伝来のもの、もう一体は篤信の神尾様からご寄進賜った十一面観世音菩薩）にお参りをいたします。

その次に、本年中に亡くなられた方々の白木のご位牌が並んでいる新亡精霊の位牌壇。戻って、今度は玄関のところにあるもう1体の韋駄天様に参り、





長泉寺の節分・・・平成27年1月23日

おはようございます。

お正月だからというわけではございませんが、今日はお許しをいただいて少しエッチ？なお話をさせていただきます。

これは今から20年ほど前のことだったでしょうか、吉川弘文館(よしかわこうぶんかん)という出版社から毎月出版されている『日本歴史』の、ある年の1月号研究余録に「姫はじめ」と言う文章が載りました。

これはお正月になって最初に男女が同衾(どうきん)する、つまり肉体関係を持つ、そのことについて歴史的資料をもとにして研究された文章でございまして、「姫はじめ」の日は古来より1月2日に決められている神聖な儀式であるということをしていろいろな歴史書をひもといて述べられたありがたい論文でございました。

この文章を読みまして、私は世の中にはこのような貴重な研究を真面目にされている学者さんもいるのだと非常に嬉しく、頼もしく思いました。ところがそれを私ははっきり、何年の1月号に



「般若心経」をお唱えして今日一日の無事をお祈りいたします。

最後に丈室と言つて住職の部屋ですが、そこにも

お仏壇(内仏)がありますのでお線香を立て

三拝し、読経をいたします。

以上が大凡毎朝の流れです。

このような毎朝のお寺の生活は、他人様から見ればせわしなく面倒な事かもしれないが、私どもにとってはそれが身についた日々の生活になつており何の不自由も感じていません。朝4時50分起床、6時40分頃までの長泉寺の日常です。ありがとございました。



載っていたか忘れてしまいました。ですから、そのご研究をここで改めて皆さんに紹介することができません。今はパソコンの時代ですから、ご興味のある方はお調べになって、詳しくご覧になっていただくとよろしいかと思えます。

さて間もなく節分がやってまいりますが、長泉寺の節分はいつの頃からかわかりませんが、年男の方々が各自スリコギを両手でもちまして福男が「福は内、鬼は外！」と掛け声をかけながら福豆を撒いた後に、「ごもつとも！」と大声に叫びながらそのスリコギを、豆を拾わんとする人（特に女性）の股間に押し当てるという奇祭が伝わっております。

この「ごもつとも様」と言う長泉寺の節分の風景はテレビでこれまでも何回も放送され当地でも有名になっていきます。この風習は秩父の三峯神社に伝わっている奇習だということを知り、三峯神社の節分では、そのスリコギを大事そうに厳かに天に向けて捧げ上げるように「ごもつとも！」と大声に奏上し、五穀豊穡を祈っている姿がNHKで放送され深い感動を覚ええました。

鬼は外と言って豆をまき、その豆をほりほりと食べるだけの現代的な豆まきとは異なり、むかしの節分に

は身近にある様々な疫病を追い払い、今年も稔りの多い年になるようにという切実な現実的願いと子孫繁栄がその行事に込められており、その熱い心を感じます。

さて、今年の長泉寺の節分豆まきは、2月1日、日曜日の夕方4時からです。本来であれば節分当日に行うのが当然ですが、子供たちのため、集まりやすい日曜日の午後節分の意味を、お話をしながら行事を実施しているわけです。どうぞ皆様も多数お越しいただき、今年の厄落とし、五穀豊穡、子孫繁栄を祈願していただきたいと思います。

お菓子等もたくさん用意しております。お待ちしております。

**2月1日(日) 午後4時から**

2月1日(日)は、長泉寺恒例の節分会(豆まき)です。《雨天決行》  
どうぞご家族様おそろいでお参りいただき、縁起物の「福豆」をひろって下さい。  
たくさんの福菓子も用意しております。《参加費無料》

せつぶんついなえ

# 節分追儺会

今年の豆まきは  
**2/1(日曜日)です!**  
間違えないでね!

長泉寺の豆まきでは、「福はうち、鬼はそと!」の年男・年女の発声のち「ごもつとも」と呼応して、若衆が持ったスリコギをそっと参集者の股間に押しつけます。つまり子孫繁栄と五穀豊穡をお祈りしながら「鬼う門には難業たる」を地でいこうというわけですね。どうぞこの少しエッセイな豆まきに皆さんおそろいでおいで下さい。

F981-1505  
角田市角田字長泉寺 6 9  
TEL 0224-62-1004  
FAX 0224-63-0063

曹洞宗  
**長泉寺**

課題・・・平成27年2月6日

おはようございます。

先日の2月1日の豆まきには雪で足元の悪い中、親子約三百50人の方々がお集まり頂き、盛大な豆まきが行われ大変嬉しく感謝をしております。

当初は戸外で豆をまく予定でしたが、雪が降り積もっておりましてので急遽本堂の中で、まあ芋洗い状態の中で賑やかに、賑やかというよりもなんか入り乱れて年男様も豆を拾う子供たちもわけがわからないうちに豆まきが終わってしまいました。ともあれ今年1年健康で無事で良い年であるように願いたいと改めて思っています。

さて、名古屋で年老いた女性を未成年の若い女子学生が殺害をしてしまうという悲しい事件がおきました。新聞によりますと、この加害者の女性は子供の頃から人を殺してみたかったという願望を持っていたということ。殺人事件は言うまでもなく、この報道は、私たちにいっそう衝撃を与えたニュースでした。

そこで、幼稚園の先生方にレポートを提出するよう課題を与えました。それは子供から「なぜ人を殺

してはいけなの？」と質問されたら一体どう答えるかということ。です。

このような質問を大人にいたしますと、まあほとんどの大人は次のような行動を取ります。

つまり、その問いにふさわしい適当な答えがどこかに書いていないかとまず本を調べたり、あるいはパソコンを開いて検索をして他人様がどのような答えをその時にはするのだろうかということを探します。そしてその中に自分の考えと合った、あるいは書かれた人の考えにギリギリ納得をして、同調出来る答えが見つかりますと、あたかもそれが自分の考えであるかのようにして子供に返答するということ。をします。

けれども、それでは子どもの中にはきちんと届かないと思います。当たり前です。借りてきた考えですから子どもに納得させる迫力がありません。間違っているにしてもいいから、自分が生きているこの時間、今まで生きてきてこれまで培ったまた経験や考えを下にして自分の考えできちんと子供に相対する、こういう姿勢が大事だと思います。

正しいもつともらしい事を答えるというよりも正面から子供の心にぶつかっていくそういう親の



視線が子供にとっては嬉しいもの信じられるものだと確信します。

さあ、あなたなら「一体なぜ人を殺してはいけないの？」それに対してどう答えるでしょうか。一人一人の課題として今回のニュースを見てほしいと思います。

失礼致しました。

メガネ・・・平成27年2月17日

おはようございます。

最近、とみに視力が低下して困っております。先日検診をいたしました。今までは左右眼鏡を使用して1.0と1.0でした。ところが、今回は左目だけが0.6まで低下して非常に驚き、自分もがっかりしております。さっそく眼鏡を新調と言うことになったわけですから、実は昨年の春からこれで三度も眼鏡を取り替える羽目になっているのです。

視力が低下していちばん困るのはお風呂に入った

時です。お風呂にあるボトルに入ったシャンプーとかリンスとか、そういうもの、もちろん私は頭を剃っておりますのでリンスなどには縁がありませんが、そのボトルに表示されている字を読むことができません。眼鏡をかけて入浴される方もいらっしゃるかもしれませんが、大体は眼鏡を外してからお風呂に入るのではないのでしょうか。ですからこのボトルにいったい何が入っているのかわからないと言つことで苦勞します。

それから、まあいわば色々なそういう小さな字、これが読めなくなってきた、目に老人に優しい表記とか言う言葉が本当に身にしみて感じられるようになりました。

僧堂においては、これは節電というか何と表現したらいいかうまく言葉で言い表せませんが、とにかく照明が暗いです。御本山では3時あるいは3時半に起きて暁天坐禅に参りますけれど、本当に暗くて長い廊下を歩きます。また坐禅堂も暗く、暁天坐禅が終わり、ご本堂で朝課のお勤めをする場合の照明もなかなか薄暗い状態で、そういう環境に慣れているものですから修行僧にとりましては、世の中はうすぼんやりした明かりという

のが当たり前だと思えて来ます。

けれども、若い修行僧にも眼鏡を多く使う人が増えてきました。そしてフレームですけれど、仏様には金属は無礼に当たると言う理由で、例えば永平寺では黒いプラスチックのフレームの眼鏡を使うことが定番になって居るようです。

方丈さん照明を明るくした方が眼鏡の度をアップするよりも効果がありますよと、どこの眼鏡屋さんでも御指導いただくわけですが、それがかなわない私ども修行僧にとりましては度数を高くするしか方法はないと言う悲しい立場の人間になってしまいました。

さて、童謡に「トンボのメガネは水色メガネ。青いお空を飛んだから」と言う美しい歌詞の歌があります。先入観や偏見によって人や物事を見るステレオタイプの色メガネだけはかけまいと誓っています。

その一言・・・平成27年3月1日

おはようございます。

東京に出かけると驚くことが多いです。先日も所用のため東京に出かけ、山手線や都バスに乗ってふと中吊り広告を見ましたら、生きている人間のためのマンションの広告より亡くなった方々を納骨するマンション型霊園の広告が圧倒的に多くて本当に驚いてしまいました。

マンションというビルは永久的に建っているわけでもないでしょうからビルが無くなったらこの納めたお遺骨は一体どうなるのかな、そんな疑問の目で広告を眺めておりました。企業人はいろいろなことを考えるものです。

すると、ある学園の入学案内の広告が目に残りました。その広告の中に、次のような言葉が書いてありこれを読んでまた驚きました。「その一言」という言葉です。その一言で励まされ、その一言で夢を持ち、その一言で腹が立ち、その一言でがっかりし、その一言で泣かされる、ほんのわずかな一言が、不思議に大きな力持つ、ほんの一寸の一言で、というものでした。



あれ!?!とと思いました。と言うのは山田洋次監督の大ヒット作映画「フーテンの寅さん」の舞台となる団子屋さんの「とらや」、その電話の上に中国のある僧侶の言葉よりという小さな貼り紙があって、映画好きの方なら誰も気づかれる言葉ですが、その貼り紙の言葉を思い出したからです。文言は次のようなものです。

言葉は心。一つの言葉で喧嘩して、一つの言葉で仲直り、一つの言葉で頭がさがり、一つの言葉で笑いあい、一つの言葉で泣かされる、中国のある僧侶の言葉より。

募集広告とフーテンの寅さん、この二つの言葉がすごく似ており、私はフームと思いました。早速帰りまして調べてみたところ、この学園のほうの言葉は1999年の4月1日に学園の創始者がお作りになられて、学園の入り口の記念碑彫られてあるということがわかりました。

フーテンの寅さんのほうは「中国のある僧侶の言葉より」となっておりますので、なんとなく古いような感じがいたします。まあ似通っているだけで二つのこの言葉には関係がないのかもしれませんが、私は何となく、いまでも不思議な気持ちであります。

また、この中国のある僧侶の言葉とありますが、一体どのお坊さんの言葉であるか調べてみたのですが、私には出典がわかりませんでした。ともあれ、この中国のお坊さんの言葉を私は大きく書いて幼稚園の先生方に1枚ずつ配り、お部屋に貼って保育の心構えの一つとさせています。

なお、今日の私の話に関連して、臨済宗妙心寺派實相寺公式サイトに、「ひとつの言葉で喧嘩して」があります。参考にどうぞ……。

**3月11日・・・平成27年3月11日**

おはようございます。

今日3月11日は東日本大震災発生の日で、あれからもう4年、数多くの方が犠牲となり、そしてまた数多くの方々が行方不明のまま今も見つかっておりません。まことにその衝撃は私たちの心に深く残り、悲しみは今もこれからもずっと消えることはありません。

宮城県ではこの日を「みやぎ鎮魂の日」と定め、各地各方面で哀悼の誠を捧げております。当長泉寺でもご供養をもうしあげ、多くの犠牲の方々に改めて慰霊の誠を捧げました。

さて先般、長泉寺のお檀家の方で震災の犠牲になられた方のご遺体が3年10ヶ月目で発見され、ご葬儀をさせていただきました。ご家族の様の心の中には、震災でもう娘は生きてはいないだろうなという諦めの気持ちも少なからずあったと思いますが、結局ご遺族の方々は遺骨が発見された日をご命日と定められました。震災に遭遇したとしてもどこかできつと生きているにちがいない、そういうご自分のお気持ちが発見日を死亡推定のご命日と決めたことに託されたような気持ちがいいたします。

「天災は忘れたことにやってくる」とか「災難のときには災難に遭うがよろしい」（良寛）のお言葉もありますけれど、真意はともかく、被災された方々には何の意味もなく、むしろ腹立たしくさえ思えるにちがいません。悲苦の現実を受入、折り合いをつけるのは自分自身でしかできません。それに私たち支援する者がいかに手を差しのべるかが大切なのであり、いろいろな手立てで救われるという

事はなかなか難しいことだろうと思います。

悲しい出来事を決して忘れぬよう深く心に刻み、被災された方々との「縁」をつなぎ続けること、これが最も肝要なことと信じます。

**五月病・・・平成27年5月10日**

皆さんこんにちは。

文章を書くのが苦手で長い間ご無沙汰をいたし、前回の文章を載せてから二ヶ月も経ってしまいました。年度末、年度始め、いろいろな事があって、なかなか筆を持つ意欲が湧かなかつたと言ってしまうばそれまでですが、本当にご迷惑をおかけして申し訳ありません。

今日は幼稚園の話を書かせていただきましたと思います。4月に入園をした子供達をご両親の元を離れ、ようやく幼稚園の生活に慣れたところに連休が入りますと、子供達はまた甘やかされる家庭生活に戻れるという訳で連休後、登園を渋ったり泣いて登園をするお子さんが多くなってしまう

す。

小さい幼児が親元を離れて初めて経験する集団生活の場、そこが幼稚園ですから、幼児が不安になるのも当然です。これはお家、特にお母さんが恋しくて泣くとばかり私は思っておりましたが、そうばかりではないという事をこの頃初めて知りました。

それは、私が幼稚園に行くとお母さんは「幼稚園でどんな事をしてるのかな？一人で大丈夫かな？」と心配になる。私がいけないことで不安になっているお母さんのことを思うと、子どもは逆にお母さんのことが心配になってしまって泣いてしまう、こういう子供もいるのだという事が最近わかりました。

ですから、おうちの方にはまた登園を渋るのではないか、幼稚園で泣くのでないか、駄々をこねるのではないかと心配顔で幼児を幼稚園に送り出すのではなく、「あなたがお母さんを頼らず自分の力で幼稚園に行くってくれるのは嬉しいよー」と笑顔で送り出して欲しいとお願いをするのですが、やはりお母さん方は心が表情に出してしまって心配顔で送り出す方が多いようです。泣く子の親御さんの方がどうも子離れが苦手のようです。

このように、私たちがこうではないかと思ってい

ることが、実はそうではないことが世の中にはたくさんあるものです。

例えば、様々な理由で部屋に閉じこもっている、所謂、引きこもりの子供達にしても自分の思っただけでどうしてなのかな？と考えがちになりますが、もうちょっと相手の身と心に寄り添って見方を変えろということが大事なのだと思っと思っています。

5月は五月病という環境不適應による精神的不安定状態の病気が起る時季と昔の人は言っておりましたが、それらも見方を変えれば単なる五月病というものではないかもしれません。

さて、私の住む角田の山や森は新緑の季節を迎えたというのにポツポツとまるで円形脱毛症のように木々が失われています。震災復興のために山を切り崩し、山土をかさ上げ工事のための盛り土にしているからです。震災復旧のためとは言え、この光景は私の心を五月病にさせる何とも残念な光景です。失礼いたしました。



おむすび・・・平成27年5月20日

おはようございます。

能登の大本山総持寺祖院、金沢の大乗寺、富山市の光厳寺とお寺の用件で歩いてまいりました。その時にコンビニのおむすびを求めて食べたのですが、値段はこれまでと同じだと思いますが、おむすびの大きさが随分と小さくなったのに驚いてしまいました。これでは3個も食べないと力が出ないと苦笑しました。

さて明日は幼稚園の遠足です。子供たちがお父さんお母さんと一緒に仙台の「八木山動物園」や「みちのく杜の湖畔公園」に遠足に出かけます。

お弁当の人気者はやはりお母さんが作ったおむすびです。けれども大学生などは「お母さんが作ったおむすびは不潔で嫌だ、機械で出来たコンビニのおむすびの方が美味しい」。そう言う声が聞かれるのだそうでこれにも驚いてしまいました。

ご葬儀で、亡くなったおばあちゃんを見送る子供あるいはお孫さんがお別れの言葉や思い出のお話をする事がよくあります。そのお話の中でおばあちゃんの思い出として一番にあげるの「学校からお腹をすかして帰って来た時におばあちゃんが作ってくれたおむ

すびが美味しかった。味噌をつけたおむすびがとてもおいしかった」と、お話をするお子さんやお孫さんが多くいます。その時に私は「そうだね、けれどもおばあちゃんはその手が汚れていたかもしれないと思い、一番最初に作ったおむすびは君たちにはあげなかったんだよ。そしてもう一度手を洗って二番目に作ったおむすびを君たちにあげただよ」と言うお話をします。

すると、子供たちはエツと驚きます。このようにお母さんやおばあちゃんも小さな子供さんに食べさせてあげるおむすびにはやはり見えないところで清潔に気を使っていたことを思い出してほしいと思います。

来月は宮城県の<sup>6.12</sup>防災訓練があります。その時も炊き出しのお母さんおばあちゃん方はマスクをし三角巾をかぶりそしてナイロンでできた調理用の手袋を手にはめておむすびを作ります。それは訓練だから致し方ない事かもしれませんが、とっさの場合はそのようなものがなくても、手そのもので握り締めてくれるおむすびはどんなにか美味しく心の支えになると思います。

一つのおむすびに込められた色々な思い出を、

以前自転車で全国を歩いている火野正平さんのテレビで見ました。『女の子が小さかった時に山に遠足に出かけることになりました。お母さんがいないのでお父さんはお昼の時間にお弁当を届ける約束をしたのだけれど頂上についてもその女の子にはお弁当が届きません。泣きそうになり、心配していると、ハアハア息を切らしてお父さんが駆け上がった来ました。そしてみんなとはちよつと離れたところでお父さんと2人でお父さんが作ってくれたおむすびを食べた』という話の番組でした。いいお父さんだなあと私はちよつと涙ぐみました。

千日回峰行といって野山を千日間も駆けめぐる荒行がありますが、その修行僧の命を支えるものは一日たった2個のおむすびだけだそうです。千日回峰行に立ち向かう修行僧を応援する台所当番僧のガンバレという心の支えの魂がそのおむすびにギュッと詰まっているからでしょう。

おむすびに関するお話をさせていただきました。失礼いたします。

山を愛する人・・・平成27年6月3日

おはようございます。

先日、長泉寺のお檀家様をお連れして出雲大社他山陰の旅を2泊3日で旅行してまいりました。飛行機に乗って座席のフリーペーパーを開いてみましたら、牧野富太郎さんの特集がされておりました。

ご存じのように牧野富太郎先生は高知県生まれで日本を代表する植物学者、または植物分類学者と言った方が良いのかもしれませんが、とにかく子供の頃から野山を歩くのが大好きで一日寝そべって花や植物を眺めていたそうです。そういうこともあったためでしょうか、小学校を中退をして、その後は独学で素晴らしい植物学の大先生になったわけです。

道元禅師の言葉に「山を愛する人は山に愛される」、そう言う意味の言葉がありますが、牧野先生もおそらく野山草花を愛し、野山草花から愛された先生に違いないと思います。

ところでご周知の通り、現在国会では衆議院安全法制特別委員会において集团的自衛権など安

全保障関連法案の審議が取り行われています。与党野党、喧喧諤諤の論争が繰り広げられているようです。

さて、「世界の平和を論ずるためにはまず家庭を平和にすることが大切です」などこの委員会でお話をするものなら、なんと間抜けなことを言っているのだろうかと笑われるのでしょうか・・・。

先の大戦では、僧侶など我が国の仏教者の方々が戦争に加担したということで仏教者の戦争責任について様々な研究がなされましたが、その研究の成果は一体現在どうなっているのか？と自分自身を省みることがあります。それは、私は現在憲法9条を守る会の会員になっており、末席とは言え、名を連ねているだけで平和実現のため何もしない自分自身を少し後ろめたく思っているからです。

ここで話をまた前に戻しますが、祖国を愛する人は祖国から愛され、また同時に他国を愛する人は他国からも愛される。そのような考えで、世界平和の議論を積み重ねる国会、世の中になって欲しいなと思っと思っています。

## 坐禅会・・・平成27年6月12日

おはようございます。

毎週日曜日、夕方の5時から細々とはありますが、日曜坐禅会を行っております。一般の方々を交え約45分ほど坐り、その後茶話会を開いて和やかに開催しています。

春夏秋冬、それぞれの景色それぞれの季節の音に囲まれて坐禅をするのは気持ちの良いものです。とりわけこれから梅雨の季節を迎え、雨の雫がポチポチと降る中で坐禅を組むのは大変気持ちの良いものです。

雨期の季節は外で労働が出来ない。また、虫などの生き物を踏み殺すこともある。そこで「雨安居(うあんごう)」と言って一定の期間部屋にこもって坐禅修行することが釈尊の時代からの習わしとなり、この季節こそ坐禅を集中してする時期となりました。(4/15もしくは5/15から3ヶ月)。

坐禅中姿勢を正し呼吸を整え「調身・調息・調心」と言われるように身も心も正して坐ります。どうしても足が組めない方のためには椅子を用



いての坐禅も行っておりますが、なかなかお寺の山門をくぐって坐禅会においでいただく方が増えません。いささか残念でもあり、また主催する自分の力不足というものを痛感しています。

坐禅中には、巡香という役目の修行僧が、いわゆる「警策(きょうさく)」という棒を持って姿勢や昏沈(こんじん)(仏教で説く煩惱の一つで、「沈んだ心」を指します。)を正してくださるわけですが、一般の方はこれで肩をパンパンと叩かれると思っっている方が大部分ですが、警策を用いて打つことはほとんどありません。それは集中して座っている方の妨げ、音による妨げになるからです。

坐禅の経験を積んでいくうちに鎌倉の臨済宗の禅寺に行ってみよう、あるいは旅行中に会った禅寺にも行ってみたいと、いわゆる昔の武者修行道場破りのように転々と各地の坐禅会に参加したくなる方も居るようです。それはそれでいいかもしれませんが、正師を求める遍参(へんさん)脚(あし)ならいざ知らず、たんなる朱印帳(しゆいんぢょう)巡りの旅ではどうでしょう?。

曹洞宗(そうとうしゆ)では、何処(どこ)で坐禅をしたかではなく、誰のもと(正師)で坐禅をしたかを大事にしています。例えば、絵画を見る、あるいは音楽を聴く。それに

置き換えてみますと、何を聞いたか何を見たかではなくて、誰と見たか誰と聞いたかを大事にしないでと言わうわけです。正師に随侍(ずいじ)して行住坐臥(ぎようじゅうざが)をともしする。すると正師の生き方、悟りに薰習(くんじゆく)され啓発(けいはつ)されて私も正しい生き方を歩めるようになる。これが禅の教えのような気がいたします。

私はしがたい売僧(うりそう)まいす(※意味は辞書で調べてください。)ですが、皆様の正師と頼れる禅僧を紹介することなら出来ます。また、時において正師となるパートナーと出会えた人は人生の幸せ者(しやうざ)と言えるでしょう。

長泉寺(ちやうせんじ)の蓮もこれから日毎に蕾(つぼみ)が膨らみ、水面に大きな花を咲かせる季節となります。どうぞお寺に足を運んでいただき、ひととき静かな心になつて坐禅の中で自己を見つめて欲しいと思います。お待ちしております。失礼いたしました。

## 朝の散歩・・・平成27年7月3日

おはようございます。

お寺には、今年3歳半になる雄の柴犬「竹千代」くんがおります。竹千代くんと朝散歩するのは私の役目、夕方の散歩は家内の役目となっています。ですから、私はだいたい朝5時半から6時半ぐらいにかけて毎朝、竹千代と散歩します。お寺のそばに台山公園があるものですから、お寺や台山公園の周辺は散歩する方、ジョギングをする方、ペットを連れて散歩する方、たくさんの方々と出会う場でもあり、時間でもあります。

ところで私は自分なりにルールを決めており、出会ったら必ず私の方から「おはようございます」の声掛けをするように努めています。けれども向こうから歩いてきた方が「あっ、お寺の住職だな」と思ってコースを変えたり、あるいは挨拶をしてもその返事がない方などもあり、それはそれなりに結構面白いことではあります。

当然ながら、お互いに声掛けをすると段々に顔が馴染んできて、ある程度の距離になると「おはようございます」「今日は」の挨拶ばかりでなくいろいろな会

話を交わすようになり、嬉しくも楽しく思います。

ところでペットを飼われている方の中には、おそらく始末をするのを忘れたのでしょうか、山門の側に犬の糞が落ちていたり、お墓の前あるいは道路際にそのまま糞を放置されている人も中にはいるようで、少しこれには困ったことだなと思っています。

臨済宗の言葉で「トイレに行ってウンチをしたらお尻を拭きなさい」（自領出去じりようしゅつこ）という意味の言葉があると聞きました。後始末をきちんとなさいということです。曹洞宗の言葉にも「ご飯を食べたらお茶碗を洗いなさい」という意味の言葉がありますが、それと同じだと思います。

ペットが糞をして、その糞の始末をしないで主が去っていくとしたら、その糞をしたのはペットではなくて主がしたのだ。その主がお尻を拭かないで帰って行ってしまったのだ。そういう意味にもなるかと思えます。ペットが笑われているのではなく主が笑われている。飼い主として笑われないようにしようと思って、ペットの糞の始末をし

てほしいなと思います。

「ペットの糞を片付けよう」という市役所や台山公園、お寺の立て看板が目に入らないかなと残念に思います。

失礼いたしました。

## 立秋・・・平成27年8月12日

おはようございます。

8月8日は立秋でした。それまで大変な猛暑続きの毎日でしたが、季節とは正直なもので立秋を境にこころなしか涼しくなった気がします。蝉の声に混じって夜には虫の声が聞こえます。

さて、お盆の頃となりお寺やお墓にはたくさんの方々が参りに来られ賑やかです。けれども、毎年同じ行事とは言え「同じように」準備し、「迎え火」を焚き、「おまいり」をし、「送り火」に手を合わせることは、なかなか至難のことと思われるます。伝統の行事や教えを守り維持するためには、それなりの覚悟と信念がなければ出来ません。

例えば、僧堂では毎朝お粥とゴマ塩をいただくわけですが、これを毎日同じように調理するのは大変難しいことです。それには様々理由が考えられるでしょうが、とにかく同じことを繰り返し繰り返し、しかも完全にすることくらい難しいことはありません。これを達成出来る人、それを「名人」とか「達人」と言つのでしよう。

ある老舗の料亭では、毎朝決まった時間に「ご飯」「みそ汁」「漬け物」「たまご焼き」「焼きのり」だけの朝食を一年365日毎日作らせ、それを料亭の主が食し、出来不出来がないか、ムラなく毎日調理できているかを点検して調理人の技を磨かせる修行を課しているという話しを聞いたことがあります。それを聞いて私は流石と思いました。

私のお寺でも毎朝の勤行を欠かしません。全く同じに出来ているかと自問すると、自信がありません。

原子力発電だって人間が作動させるもの、ずっと同じように安全に運転出来るか不安になるのも当然な気がします。

失礼いたしました。



校歌・・・平成27年8月30日

おはようございます。

立秋を迎え、お盆が終わってみたら朝夕めつきり涼しくなり、時には肌寒くさえ感じる今日この頃です。

あの猛暑がまるで嘘のようです。

今年は天気も暑かったですが、高校野球夏の甲子園大会も熱い試合が続きました。とくに仙台育英と東海大相模の決勝戦はどちらが優勝してもうなづける、それほどいい試合だったと思います。

さて、8月25日付の河北新報に「甲子園、東北勢なげ優勝出来ぬ」という特集が載せられており、野球に詳しい5人の識者がそれぞれウンチクを述べていたようです。けれども私は、ひたすら無心になってプレーした高校野球児にとっては何の意味があるのか？、と私はいささか面白くなく拝読いたしました。

それはさておき、高校野球のもう一つの楽しみは各出場校の校歌が聞けるということです。以前、私の住む角田には角田高等学校（男子校）と、角田女子高等学校がありました。私はその男子校である角田高等学校を昭和47年に卒業しましたが、少子化と男女共学化の波に洗われ、やがて二校が合併し、新しい「角田高

等学校」が生まれました。平成17年のことです。ですから、今の新しい高等学校の校歌を私は知りません。同時に私は、私の角田高の校歌を失いました。校歌というのは単に学校の歌ではなく高等学校の3年間の生活が凝縮された人生そのものだと考えています。「臥牛館内名に高き豊成閣のいしずゑを」という角田高等学校の歌、あの四拍子の歌を聴くたびに懐かしい同級生の顔やバカなことをした毎日が即座に蘇って来ます。

大学は山形大学を経て駒沢大学大学院でした。駒沢大学の校歌は北原白秋作詞・山田耕作作曲の名歌です。やはりその歌を聞くと青春の日々が臉に浮かんできます。早稲田大学には早稲田の、東京大学には東京大学の、慶応大学には慶応大学のそれぞれ名歌とされる大学校歌がありますが、やはりなんといっても我が母校の校歌が一番です。そして自分の母校の校歌が一番と思うのは私だけではないと思います。

今は少子化でどんどんと小学校や中学校が閉鎖され、自分の母校が消えていこうとしています。我が人生の応援歌でもある校歌までが消えることの何と寂しいことでしょう……。

ともあれ、やがて20年経ち30年経って、本年の甲子園野球大会準優勝校の球児達が寄り集まって、肩を組み「南冥遙か天翔る」と校歌を声高らかに歌うならば、彼等の心には優勝や準優勝などという小さな思いではなく、『やりきった！生ききった！』という大きな至福感だけが湧き起こるにちがいない。私は強くそう思っている。

### 内観・・・平成27年11月26日

おはようございます。

少しの間エッセイを休ませていただきました。ご迷惑をおかけいたしました。

さて去る9月、ちょうどお彼岸頃ですが、縁があつて鳥取市にある「心身めざめ内観センター」を訪れました。千石真理先生という綺麗な女性の方のご指導下で、誕生から現在までの自分自身を見つめる内観をして帰ってまいりました。

その内観センターは大変閑静な所で自然豊かな場所にあり、室内も純和風にしつらえたお家でした。私と一緒に内観の指導を受けたのは日蓮宗に在籍の若い僧侶の方でした。私と彼と2人、別々の部屋で2泊3日にわたる内観をしたのです。非常に家族的な雰囲気です。三度々、おいしい食事を提供していただき、リラックスした雰囲気の中で千石先生による懇切な指導を受けたわけです。

内観というのは、そもそも浄土真宗の僧侶の吉本伊信老師という方により開発された一種の自己探究法であります。1番（してもらったこと）2番（お返ししたこと）3番（ご迷惑をかけた事）、この3つのことについて自分と身近な人たちとの関係の中において過去から現在までのその事実を振り返るわけです。

こういうことをしてもらった、こういうことをお返ししたと云うことを相手の立場に立つて見直すと言う事です。今回、私は、私の母親、父親、妻そしてまた母親のことを内観して、そのつど千石先生と面接をさせていただいてお話をすると云うことを2泊3日の間ずっと朝5時に起床して夜10時に就寝するまで繰り返し面接を受けたと言

うことであります。そういったしますと、親は親なりに私に対して精一杯なことをしてくれた、また色々な人の助けがあったからこそまで行き着くことができたという感謝の念が無意識のうちに呼び起こされ感謝だけ感じて帰ってまいりました。

「大事にされている」「愛されている事」を心から実感できたように思われ心から幸福感に満たされ、私も他人の幸福のために何かをしなければいけないと言う心が自然と沸き起こったような気がいたします。

周知の通り、私は1人の僧侶としてたくさんの方のご葬儀をさせていただいております。その中で「あなたは今死んでも後悔ないですか?」「いつ死んでも後悔のないように」と口先だけで言うのではなく死にいく人の心の内面から救える、そういう僧侶になりたいと常々思うものの、僧として未熟なる者の悲しさ、その域に立てません。しかし今回の内観によって最後に頼れるのは仏様だよ。仏に出会うことができた人は幸せだよと自信を持って言えるお坊さんという立場に喜びを感じずる人になったような感じがします。

まあ人生、世の中は諸行無常だと言われておりま

すが、この中で縁という不思議な縁(えにし)で今生かされている自分の命を後悔のないように生きて、安心して浄土にいける境地に私もなりたいし、他人様も導いていければと感じて帰ってまいりました。

### ジュースの季節・・・平成27年12月10日

おはようございます。

今年の夏は毎日毎日とても暑くて皆様方も夏を過ごされるのが大変だったと思います。お寺のお坊さんたちも毎日毎日、顔を赤くし汗を拭き拭き境内を掃除しておりました。そこで、せがまれて「Vショップングでお馴染みのジュースを新しく求めて、ご本尊様からお下りの果物をジュースでジュースにして頂くことにしました。届いたその日は、一同、輪になり箱を開ける手もうやうやしく、早速試しては「ウォー!TVの画面と同じだ」などと歓声をあげ、お陰で元気に過ごすことが出来ました。

年の瀬に・・・平成27年12月18日

おはようございます。

一昨年の秋、ここ長泉寺にて曹洞宗宗立専門僧堂が開催された時の話です。ある名のある御老師様が講師として長泉寺にお越しいただき、私はその御老師様の身の回りのお手伝いをさせて頂きました。

御老師様は、「これは私が若い頃、禅師様に頂いた着物を着る時の腰紐だ。長いこと使ったようにずいぶん傷んでしまった。」見るともう紐はボロボロに傷んで色も褪せたボロ紐でした。「古くなったのでこれを屑かごに捨ててくれ」と私に手渡しました。私は、はっとして「御老師様、これを私が頂戴してもよろしいでしょうか？」と申しましたら、「捨てたのだからお前の勝手にするが良い」と言われました。捨てるのであれば、わざわざ長泉寺までそれを使って着物を着て来るはずがありません。ですから、これは御老師様が私に下さるために意図的に着けて来た物なのだとは直感的に感じたのです。

つまり、腰紐がこのように擦り切れるほどになつて来ると、あの暑さを忘れるほど涼しい秋が早くやって来て、ジューサーの出番は激減。今度は寒くなり、またリンゴやミカンなどのたくさんの果物が仏様にお供えされ、そのお下がりやジュースでジュースにして、また飲ませて欲しいなあとおねだりしたら、「方丈さんジューサーの季節はもう終わりました」とお手伝いの和子さんのつれない声に凹みました。見ると大掃除が終わった台所の片隅に、ご法要会食のお膳を包んでくるビニール袋を被ったジューサーが、ひとり寂しく座っております。さりとして私もジューサーを飲んだ後の後片付けが大変なことを知っておりますので、仕方がない来年の夏まで冬眠させようとジューサーを寂しくなでました。そして、「冬眠を永眠にさせないで！」と女性軍をにらみましたアハハ。

寒くなる季節、また年末年始の忙しい時期を迎え、風邪などで感染性の病気になるのは自動車の運転、暖房器具の取り扱いなど健康・事故に気をつけて良い年の瀬を迎えてほしいと思います。

失礼をいたしました。



るまでお前は修行しないといけないと言う温かい策励と私は思ったのです。

さて、この1年を振り返りますと、私はどれほど勉強をし、どれほど修行したのか、非常に恥ずかしく思っています。

来年こそはと思ってはみても、来年の年の瀬には、また今年と同じように反省するばかりの一年になりそうで、新しい年を迎える前から何とも面目ございませぬ。

### 除夜の鐘・・・平成27年12月26日

おはようございます。

暖冬とは言え朝夕冷え込みが厳しくなり、朝などは起きるのが辛く感じる日も少なくありません。

さて、長泉寺では朝6時と夕方5時に鐘を撞いております。周知の通り、鐘楼は高さが4〜5メートルのところ、床があり、人が立って鐘を撞く形式になっています。ですから鐘楼に登って鐘を撞く時に北風が吹くと寒さを感じます。鐘は1声大体2分間隔で九つ撞

きますから16分ぐらいかかります。

鐘を撞く担当のお坊さんは寒いので早く鐘を撞き終わりたいと思うのでしょうか、2分間隔が少し狭まりまして狭まると同時に鐘の音も低くなつてしまい早く終わりがります。そこで私は下から大きな声で怒鳴るわけです。「もっと鐘を大きく撞け!」。病院で入院をしておられる方、施設に入られているお年寄りの方、みんなお寺の鐘が鳴つたなあ今日も一日が始まるなあ、今日も終わったなあと、そういうふうには鐘を聞いている方もいらつしやるのだから精一杯大きく、皆さん頑張ってください、元氣ですか、そういうつもりで鐘を撞けと下から大きく怒鳴るわけです。

けれど、お坊さん達も忙しいのでしよう、早く鐘を鳴らしてしまい、「届かなかったよ」「聞こえなかったよ」と言うようなお叱りが届くようになってしまいます。お恥ずかしいことですが、ご迷惑をかけております。

さて12月31日大晦日がやってまいります。今年の締めくくりを長泉寺の鐘に込めていただき、除夜の鐘をどうぞみなさんも撞きにきてほしいと思います。そして新しい一年を潔い気持ちでお迎え

下さるようお待ちしております。温かい甘酒や年越しそば、そして紅白の鐘もち大福を準備して皆様方のお出でをお待ちしております。

今年1年、長泉寺のホームページをご覧いただきました皆様方に御礼を申し上げます。良いお年をお迎えください。ありがとうございました。

あけましておめでとつございませう・・・平成28年1月1日

あけましておめでとつございませう。

皆様お揃いで良い春を迎えることとお慶び申し上げます。本年もなにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて今年、平成28年、西暦で二〇一六年、「丙申ひのえねの年」であります。丙申は赤猿とも言います。一名火猿であるとも言います。灼熱の魂を持つ猿ということ



だそうです。エネルギーがあまって、馬が走り回り、猿があちこち飛び跳ねるように心の抑えが効かず、煩惱・妄念・情欲等が制し切れない、いわゆる意馬心猿いばしんえんの年にならぬよう心引き締め気を引き締めて一年を過ごして行きたいと思っております。

私は馬年生まれですから、尚更この申年にはこの意馬心猿の言葉を自制の言葉として胸にきざみ、隠忍自重の生活をするにしています。

ところで、猿で思い浮かべる諺(ことわざ)と云いますと、これはもう誰もがそうであるように「猿も木から落ちる」と云う言葉だろうと思います。同様の意味の諺は「弘法も筆の誤り」でしょうか?、ともあれ油断大敵との諺だろうと思います。

この油断大敵でまた思い出されるのは、学校の時教科書で勉強させられた「高名の木登り」というお話だろうと思います。これは『徒然草』の第百九段にでてくる有名なお話で、木登り名人と言われる人が、ある方に指図して木登りをさせ、下から見て、高い所では声をかけなかったけれど、降りてくる途中、軒の高さくらいまで降りてきた時に「油断しちゃいけないぞ」と声を掛けた。つ